

#### 第4回 史跡小牧山整備計画専門委員会 議事録

- 【1】開催日時 平成31年2月28日（木） 午後1時から4時
- 【2】会 場 小牧市役所本庁舎301会議室
- 【3】出席者 （委 員）麓委員長、赤羽委員、仲委員、播磨委員  
（事務局）岩本小牧山課長、浅野史跡係長、坪井主査、小野主査  
（受託者）株地球号、株トータルメディア開発研究所
- 【4】傍聴者 なし
- 【5】内 容 下記のとおり

【事務局（浅野）】 皆さん、こんにちは。

定刻になりましたので、ただいまより平成30年度第4回史跡小牧山整備計画専門委員会を開催いたします。

皆様におかれましては、午前中に引き続き、御参加いただきまして、ありがとうございます。

まず、会議を始める前に、欠席者の報告をさせていただきます。

本日、中井委員より御欠席の連絡をいただいております。仲委員におかれましては、この後、他の会議があるということで、途中で退席をさせていただきますので、よろしく願いいたします。

また、愛知県教育委員会のほうにつきましても、本日、議会对応があるということで欠席という連絡をいただいておりますので、御報告させていただきます。

本委員会は、小牧市市議会等の会議の公開に関する趣旨に基づき、会議を公開としております。本日のところ傍聴はおりませんので、報告させていただきます。

また、本委員会の議事は、音声録音し、議事録は、発言内容、お名前とも市ホームページで公開いたしますので、御承知おきを願いいたします。

続いて、会議資料の確認をいたします。

先ほど机上のほうに、本日の次第、それから議題(1)(2)及び報告の資料のほうを置かせていただきました。不足等がないか、御確認をよろしく願いいたします。

それでは初めに、小牧山課長の岩本より御挨拶を申し上げます。

【小牧山課（岩本）】 それでは、午前中はどうもお疲れさまでございました。午後からは、史跡小牧山整備計画専門委員会でございます。

本日の議題といたしましては、史跡小牧山主郭地区整備基本計画の修正について、また小牧山城史跡情報館「れきしるこまき」の展示について御審議いただきたく、よ

ろしく御指導賜りますようお願い申し上げます。よろしくお願いいたします。

【事務局（浅野）】 本日は、史跡小牧山主郭地区整備基本計画修正委託の一つであります株式会社地球号の面高さん、それから小牧山城情報館展示制作委託の一つであります株式会社トータルメディア開発研究所の吉原さんと小関さんのほうが出席しておりますので、御報告させていただきます。

それでは、以下の議事進行は、麓委員長、よろしくお願いいたします。

【麓委員長】 それでは、議事次第に従いまして、2の議題の(1)史跡小牧山主郭地区整備基本計画の修正について、まず事務局から説明をお願いいたします。

【事務局（小野）】 それでは、議題の(1)史跡小牧山主郭地区整備基本計画の修正について。資料がこちらのA3横長でホチキスどめになっておりますものが、この議題の資料でございますので、そちらを参照しながら御説明させていただきたいと思っております。

史跡小牧山主郭地区の整備計画というのは、従前、平成21年の3月に課が策定したものでございますが、その後、主郭地区で発見が相次いでおりますさまざまな遺構や、それに伴う評価の変化に基づきまして、今後整備を行うに当たり、その整備基本計画自体を部分的に修正を行い、そしてその修正した基本計画に基づいて今後の整備を行っていくということ、今年度策定の予定で現在作業を進めているところでございます。

委員の皆様方におかれましては、今回の専門委員会を含め、さまざま御指導、御審議をいただきまして今年度末の策定を目指しておりますので、こちらの資料によって修正箇所等を確認し、またその内容を御確認いただき、修正計画に反映させたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

まずは、概要をこちらのほうから説明します。細かい施工内容等につきましては、受託者の株式会社地球号さんのほうから説明をさせていただきたいと思っております。

1ページ目、こちらはこれまでの整備基本計画、平成21年のものから今回策定しようとしている修正のもので、どこが手を加える必要があるかというのを項目だけで報告書の目次で比較しているものです。左の四角がこれまでの基本計画、そして真ん中にあります矢印の先の四角が今回修正しようとしている項目立ての中で赤字で記させていただいているものが修正箇所ということになります。それぞれこの赤字で示させていただいている部分につきまして、この後、添付しております議題資料について、1ページから17ページまでのページまで出ささせていただいているというものでございます。

第2章の部分、遺構分布図の改訂、それから平成20年度以降の調査を追記、そして今後の調査予定などというものの課題の整理といった第2章にかかわる資料がページの1番から6番まででございます。

ページの一番上をごらんください。

こちらにつきましては、平成10年に策定しました基本構想、そして平成20年度に策定をいたしました基本計画からの流れと、その後の調査のものをまとめさせていただいているものです。

それから、その後、2ページ目から4ページ目までというのは、その後の基本計画策定後に調査を実施しました結果というのを図面類に落とし込んで、新たな遺構分布というものを確定というか修正したということになるかと思います。2ページ目が遺構の平面図、そして3ページ目は、それから想起される石垣や岩盤等のプラン面、図面、赤い線で示させていただいておりますものが石垣または岩盤、そして網かけというかピンク色で示させていただいているのが新しくわかった大手道に当たる登城路の途中ということになっています。

そして4ページ目、こちらが、こちらのホワイトボードにも大きな図面を示させていただいておりますけれども、オルソ図と言われる点群データをとったときのカラー版ですね。最も目で見てわかりやすい分布図だろうと思います。お手元の資料には、それにラインを示させていただいているわけですが、こちらで遺構の配置は確認していただくことができるようにということで、御用意させていただきました。

続いて、5ページです。

これまでの調査でわかったのは、赤線等で示させていただいております主郭を中心としたプランですが、既存構造物、または園路などの関係もございまして、薄く水色で塗らせていただいた部分などを中心に、まだ未着手、そして遺構の状況というのが確定できていない部分があります。ある意味、これは今後の整備に向けて宿題として調査を行っていったりすることで、それを整備に反映する必要があると課題提示をさせていただいているというものの図面でございます。

6ページにつきましては、これまでの調査の概要というものをまとめさせていただいております。

続いて、第3章に移ります。

基本計画です。

第3章の基本計画で、従前の平成21年に策定したものから基本的な考え方は大きくは変わっておりません。新たに見つかったもの、そしてどこをどう整備していくかということを改めて見直した上で、それを具体的に書き込むという作業を今回進めさせ

ていただいております。

3-1. 基本計画の策定については、このまま従前のまを基本的には使うんですけども、既存の石材、転落石と言っているものですが、以前はそれをもとの位置に戻してというようなことは当初していたんですけども、これを改めてそのままにしていたり、それから3-2. AゾーンとE-1ゾーンの修正ということで、これがページの7ページにゾーニング計画図の改訂版というのをお示しさせていただきます。

こちらの本文修正として、Aゾーンから下に4つの大きな四角で書かせていただいているゾーンの文章があるかと思うんですけども、こちらの黒字で書かれているものが従前の基本計画の文章でございます。それに対して赤字で追記させていただいているものが、今回、修正として反映させたいと考えているものですので、AゾーンからE-2ゾーンまで、このような形で進める、従前の計画を踏襲しつつも、新しくわかったものについては赤字の方針でゾーニング計画を行っていきたいと考えているところでございます。

続いて、3-3. 遺構整備計画ということで、現在までに反映した遺構と整備計画ということで、遺構の整備計画断面図というのを新たに起こしました。これは8ページにあるわけですが、8ページ左上では従前の基本計画で基本計画図、整備計画図というものを左上のようにお示しさせていただいていたもののうち、より新たにわかった石垣等の遺構表示というのを、どの部分を見せて、どのように表示していくことを明記した上で、それに従った整備をこれから行っていこうということを明示することで、修正基本計画の中に組み込もうというものでございます。

大きく分けて2つの整備方針で臨もうと現在考えておまして、1つが紫色で示させていただいたエリア、 $\alpha$ 整備と仮に呼ばせていただいております。もう一つが、水色で塗らせていただきました1工区の部分ですが、こちらが $\beta$ 整備です。簡単に言いますと、 $\alpha$ 整備というのは、石垣や虎口、道などを見せていく、遺構に従って、それを表示していくエリアと考えております。対して $\beta$ 整備というものは、遺構自体は確認ももちろんされているわけですが、それを全てむいて露出させるということではなく、ここの地下に遺構がありますよといったようなことを植栽、またはサイン表示等、または植生土のう等でほかの構造物で表示するエリアと考えて、このような基本方針で臨んでいこうと考えているものです。加えて、それに伴って各工区の中で既存構造物等が、現在、主郭の山頂部を中心に現代的構造物を整頓して、整備の中で整理した上で、整備完了を目指そうというものですので、中央下段の四角というのは現況施設の取り扱い図ということで、現況施設の洗い出しを再度行いまして、それらの取り扱い

について、現状保存ですとか撤去、それから移転と、そういったものを書かせていただいているものです。

右下の共通内容というのが、これがゾーニング計画図にも関係はしてくるんですけども、新たなこれだけの石垣が見つかったということで、整備に向かって共通の方針として、 $\alpha$ 整備であろうが、 $\beta$ 整備であろうが、どちらでも方針として共通でうたっていきたいと思っておりますものを5点上げさせていただいております。

特に変更がかかったのが4点目、調査で出土した裏込石の石材についてなんですけれども、ここまで裏込石が大量に流れ落ちたものが発生するという事は、従前の基本計画の時点では想定されておりませんでしたので、裏込石の扱いについても全く記述がございませんでした。今回の修正基本計画で裏込石の取り扱いについて、整備で使えるものは裏込石として使っていくというようなことを書いております。

続いて、実際の整備計画図ということで、9ページ以降が断面図もついて解説をしているもので、それぞれ $\alpha$ 整備のパターン、そして $\beta$ 整備のパターンというものがございまして、こちらの詳細につきましては、地球号の面高さんのほうから御説明させていただきたいと思っております。

なお、第4章の整備へ向けてということと、第3章の4番、修正整備計画というもので、16ページのほうに新たな整備計画図ということで描かせていただいているものが修正計画としての一つの目的というかゴールということになってくるのではないかと思います。それに伴う年次計画としまして、17ページにスケジュールを案として御提示させていただいておりますが、この案に基づいていきますと、一旦の $\alpha$ 整備、 $\beta$ 整備を含めた一つの流れとしての主郭の整備工事自体の完了というのは2025年度ということになります。

では、細かい整備の具体的な内容につきまして、面高さんのほうから御説明をさせていただきます。よろしく願いいたします。

【株式会社地球号（面高）】 9ページですけれども、まずこの $\alpha$ 整備ということで、石を復元、石垣を復元していこうということですが、基本計画では想定されるころまで積み上げようというふうに考えていましたけれども、新補石も積みかえるのがなかなか難しいということもありまして、これはほかの事例写真でもありましたけれども、ある程度の高さまでは積み上げて、それから上の部分につきましては植栽でカバーしていこうと、のりで抑えていこうという今計画のやつが、まずJ区のA-B断面と書いてありますけれども、こういう形で今整備していこうと考えております。

それから、下の段ですけれども、これは一番話題になりました岐阜城のちょっと出っ張った部分のところの断面を描いております。残っている石はそのまま使うんです

けれども、その上のほうを3段ぐらいは積み上げていこうかという今計画で考えております。

一番下の図のI区のA-B断面ですけれども、これは今、3石積み上げておりますけれども、これは今後の実施設計時点で、3石になるのか、2石になるのか、石の大きさもまちまちですので、この辺の石材がチャートでしてまちまちですので、これはその時点で詳細に検討していったらどうかなと考えております。基本的には、石垣の下の段については1m程度、上の段については積み上げて2m50ぐらいじゃないかなというふうに今考えております。

それから、一番上の下の図面のI-Aと書いてありますけれども、この部分が一番、これは001という部分になりますけれども、これの現況の高さ、建物がありますとか既存のホースがある関係で、それほど大きく変えられる部分ではありませんので、ここに斜面上に結びつけていこうかなというふうに今考えております。

それから、10ページですけれども、小牧山が最近の調査で、非常に岩盤を削って石垣の機能を持たせたという部分が結構な延長でありまして、その岩盤をどうしようということいろいろ悩みました。解決策としては、そのまま見せるというパターンの中で、露出ですね、これは岐阜城なんかは露出部分はかなり多くありますけれども、そういうタイプのやつと、あと露出するんだけれども、ある部分は石材強化処理といまして、液材を塗布するという形になりますけれども、こういう露出の方法。それから、保護して岩盤を見せるということ。

これはまずAですけれども、上段の写真が2枚ありますけれども、岐阜城の冠木門でありますとか園路沿い、材質的には小牧山と全く同じですので、露出させた場合は、こういう状態になるということです。

それからBの、これはなかなか適当な写真がなかったんですけれども、これは地層を露出展示しているというやつがありまして、これは石材も液剤で強化しております。ただ、液剤の強化につきましても、小牧山のチャートのかたい部分については、恐らく含侵できないではないかなと考えておりまして、かたい部分等との間にあります白い層がありますけれども、その部分だけは強化したらどうかなというふうに考えております。

下のB断面を想定した図面ですけれども、一番下の岩盤面ですね。これは今の調査では大体3.2mほどありました。この部分は露出して、その上の段は石垣が積んでありまして、この部分もある程度見せると。それから、今度は斜面になりまして、それから登城路が置いてあります部分につながっていくということを今考えております。

それから、先ほどCのパターンと言いましたけれども、これは保護した表示という

ことで、この事例写真は、岩盤に着色モルタルみたいなものを吹きつけまして、その上にエイジング処理という、それらしい処理の仕方を事例写真になります。一番下の小諸城なんかでも、こういう見せ方をしているという事例がありました。

それから次、11ページですけれども、これは大手口の部分に当たりますけれども、調査で変わっております断面図等をもとに、想定した絵を描いてみました。一番上、001部分の一部分の石垣が復元、そういう高さがそれほどある部分じゃありませんので、これで大体、調査では1.6mほどですけれども、これを積んでいるのは1mほど、当然一番下の根石の部分は見せるわけにはいかないので、前面は今450ぐらい盛り土をしていますけれども、その上で積み上げて舗装するという形で考えています。

それから、調査で石段、階段のところは見つかっていないわけですが、急斜面、これで今、調査でわかっているのが、図面上ではかってみますと大体33.6度ぐらいあります。この部分につきましては恐らく階段ではないかということで、この部分につきましては、石段をつくるわけにはなかなかいかなないので、木階段にしたらどうかということは今考えています。木階段の下の部分につきましては、表層を保護するという観点から、土系の舗装で斜面をつくっていくというふうにしたらどうかと考えております。左下の事例が、土系の舗装で斜面を固めた事例ですが、こういう形で結ぶというふうには考えています。

それから、その下の断面図ですけれども、U区のC-C'断面と書いていますけれども、これは001に上がる部分を想定した絵を描いてみました。ここの石垣が見つかっていないのは、かなり壊されている部分、上の平面図で見ますと、歴史館の水平に走っている断面を今描いております。この部分につきましても、木段階で高さの処理をして、観察路として使っていきたいなと考えています。

それから、12ページのβ整備ですけれども、今設定していますβ整備の区域というのは、石垣が一部、今、根石しか残っていないという部分がほとんどでございます。パターンとしましては、植栽で表示するパターンと、それから植生土のうと低木を植栽するパターンで。それから13ページの、かごの中に裏込めで、出てきた調査で今保存してあります石を使っているという。材質は同じになりますので、景観的連続性は保てるんじゃないかなということで、3つパターンを考えております。

パターン①ですけれども、これは今残っている石垣の上に1個植生土のうを積んで保護して、その上に盛り土して植栽するというパターンです。これでいくと、右側に石垣Iと書いてありますけれども、本来ここは1m以上の犬走りがあったと書いてある場所ですけれども、植生の勾配上、どうしても犬走りの部分がとれないという可能性があります。斜線の赤線が想定される遺構面ということになるんですけれども、そ

の犬走りが表現できないという欠点があります。

それから、その下の②ですけれども、これは犬走りを表現するために、ある程度、植生土のうを積み上げて、その上に盛り土するというパターンになります。これだと1 m20ほどの犬走りという部分は表現できますので、その部分については、場所が北側ということもありまして、竜のひげみたいに、日陰でも育つやつを使っていったらどうかというふうに考えています。

それから、13ページですけれども、これは仲先生にお話を伺いに行ったときに、こういうのもあるよということで提案をいただきまして、実際、こういう表現をしてみたもの。これは、これで石垣を表現しているというのは余り見たことはないんですけど、こういう使い方もあるということで。これでいくと、材質がちゃんと、裏込めを再利用するという事なので、材質的には同じような塗り方ができるんじゃないかなと。今、ほとんど発掘でわかっている石垣の前面の勾配がおよそ70度とされています。実際はといいますと、かご自身は2次製品、工場で作ってきたやつになるんですけど、メーカーにヒアリングしたら、勾配を変えることはできますよということなので、70度に変えることもできます。今、この絵では1 : 0 : 3ですので、70度よりはちょっと急になっております。

このじゃかごは、布団かごと言いますけれども、石詰めかごを、石垣Ⅲの場合は高さが低いので大体1段で、それから石垣Ⅱと石垣Ⅰについては2段ぐらい積み上げていくと、001、一番主郭の部分についてもすりつけができると。それから、犬走りも表現できるということで、こういう方法もあるというふうに提案させていただいております。

それから、14ページですけれども、これは別の箇所で、本当にこういうことができるのかという検討したものです。特に1のパターンにつきましては、高低差が結構ある場所ですのでちょっと難しいということで、じゃあ2のパターンと3のパターンを検討してみました。上の図のほうが、土のうを積み上げて高さのある程度確保して、低木植栽で表現しているパターンです。それから、下の段の石詰めかごにつきましては、かご自身を石積みと想定して表現していくと。これは高さが1 m50cmありますので、ある程度までは積み上げられるなということで今考えております。遺構面に対しては保護すること、あるいはじゃかご、石を詰めますので、背面の土砂が入らないように不織布を入れるなどの工夫は必要だと考えております。

それから、次の15ページですけれども、これは高低差が結構あるのと、前面に石が残っています。上の段の一番左側につきましては、これは断面を切った位置がたまたま石が2個残ってしまっていて、その部分の奥、周辺部分はある程度高さがありますので、

土のうを積み上げていくということになります。

それから、下の段ですけれども、これは石詰めかごを利用した場合ですけれども、処理の仕方は同じです。

【事務局（小野）】 では、詳細のほうは今のようなことで、基本計画を説明させていただきます。全体の話で補足させていただきたいので、16ページをごらんください。

以上のような検討の中で、このような基本計画図の案を16ページにお示しさせていただきました。3つ、今の整備方法でいった場合のことで少し補足で説明させていただきましたいんですけれども、小牧市歴史館と書かれている中央部から南西側の斜面、大手道を含んだ工区が第3工区という工区でございます。こちらの部分というのは、石垣の上から数えて2段目の部分というのが岩盤加工になっているところで、加えて大手道を画する壁面というのも石垣プラス岩盤で発掘されたものですので、今、申し上げたように、露出プラスの強化といったことで検討した上で、こちらでまずそういった岩盤の処理についての施工を3工区でまず行っていくということになろうかと思えます。3工区の整備工事というのが平成34年度なんですけれども、その後、第4工区において、今回この後報告させていただきます南東側の斜面の曲輪021から023にかけての石垣と岩盤面といったところの整備も着手していくことになろうと思えます。こちらのほうが面積的にも、また規模的にも大きな整備をしていかなければならないエリアということになりますので、一度、この3工区の部分も、さまざまな岩盤と石垣の整備こととこの基本計画で一旦うたった整備手法で取り組ませていただいた上で、その経年というか状況を確認した上で、その後の整備についてはもう一度洗い直しをする、チェックバックをした上で、こちらの整備に進んでいくということも修正基本計画の中ではうたわせていただこうと考えているものでございます。

2点目、小牧市歴史館に取りつく最後の大手道の部分というのを、今、御提案の中では石舗装させていただこうと考えております。こちらにつきましては、現況、発掘調査の中で石敷きであったということではありませんが、実際に整備後の利用状況を鑑みますと、最も通行が想定される園路になるということ、それからそれに伴う排水等のことなどを考えますと、もちろん当時の石敷きだったということを想起させない形での石敷きでの整備というのをお認めいただけると一番ありがたいなと思っている部分でございます。

続いて、最後ではありますが、石詰めかごの御提案というのは、先月来、先生方のところに、どのように整備を行っていきましようかと御相談をさせていただいている中で、仲先生のほうから、こういう手法もあると、今使え切れない裏込石もきちんと文化財として表示できるよという御提案をいただいた上で、検討の上、このような

ランを御提示させていただいたものです。

事務局としましては、実際に文化財として貴重な裏込石というのを有効に活用できると。そしてまた、これらのパターン検討の中では、小牧山城の石垣の勾配がきちんと表示できること、それからそうすると石垣を見せていく方針で臨んでいるα整備の部分との結びつけが非常にスムーズにいくというメリットがあると考えました。

なお、低木植栽等と植生土のうを選んだ場合、この部分、特に北側の尾根筋ですので、どこまでその植生部分がきちんとついてくれるか、そして茂ってくれるかといったことも少し不安があったり、また低木で石垣の特徴なりラインというのを出していくことも、その後のメンテナンスといったことに非常に左右されるといったような心配などもあることから、事務局としましては、この新しい石詰めかごというもので表現をしていくということを基本方針としてうたってまいりたいと考えております。

当然これは、こういう石がかごに詰められた状態で当時、石垣だったんだということ误解させないということは当たり前のことでありまして、それらについてはきちんと解説等で補っていくということはやっていくつもりでございますが、表現としてこのような手法というのを採用させていただきたいということで御提案させていただきました。

説明としては以上です。よろしくお願いいたします。

**【麓委員長】** それでは、今の説明につきまして、御質問、御意見等がありましたらお願いいたします。

**【株式会社地球号（面高）】** 作業をやっているうちに、植生土のうというのはどれだけもつのか。資料の中には、安土城で使っている事例写真も入れていますけれども、ちょっと不安があるかなということで、石詰めかごというのは、当然、そういうメーカーというのはほとんどないものですから、こういうやつの方が、先ほど説明もありましたけれども、α整備、β整備のつなぎ目というか、とり合的には非常にいいんじゃないかなと、今考えております。

もう一つ、新補石材について説明しておりませんが、日進のほうに砕石場がありまして、そこに一回見に行ったことがありまして、そこに同じような石が出ている場所があります。そこで確保できるんじゃないかなと。チャート自身があまり、今使われているものではないので、最近また行っていないのでわかりませんが、残っていると思いますので、確保できるんじゃないかなと。

岩盤の露出につきましても、麓先生にも御相談させていただいて、どうかなということで、モルタル吹き付けにして、それから見せるという方法もあるよねというお話も伺ったんですけれども。一番いい例が岐阜城ですね。岐阜城は、そのまま何もせず

露出して残されておりますので。とりあえず当面、強化処理はするにしても、白い部分、一番もろい部分につきましては強化処理、液剤を塗るわけですが、一回実験的にやってみて経過観察するというふうにして進めたらどうかと今考えています。

【麓委員長】 整備計画図で、その前にβ整備については幾つかの手法が書かれていますよね。同じ断面を使って幾つかの手法が書かれていますよね。結局、各部分は16ページのようにやるということで、β整備の手法としては、この……。

【事務局（小野）】 パターン3。

【麓委員長】 3つのパターンを考えているということ。

【事務局（小野）】 3つのパターンのうち③番の。

【株式会社地球号（面高）】 16ページの平面図の修正整備計画平面図（案）というのをお出ししましたが、これは石詰めかごを想定して絵を描いております。

【麓委員長】 今、この議題は、基本計画の修正についてという説明ですよ。

【株式会社地球号（面高）】 はい。

【麓委員長】 16ページに並行する、その説明のためのものがβ整備の12から15としてあるというだけで、基本計画の修正そのものがページ12から15ではないということですね。

【事務局（小野）】 そうですね。基礎資料として、これだけのものを検討した上で、石詰めかごパターンを事務局案としては採択した上で描いた計画図が16ページ目のものということになります。

【麓委員長】 いずれにしても、それぞれのページに基本計画修正と書いてあるものですから、こういう基本計画の修正案として幾つも出して、それが修正案かと思ったら、そうじゃなくて、最終的にはページ16だけが生きてくるんですか。

【株式会社地球号（面高）】 今考えていますのは、これは説明しやすいので大きい図面をつけておりますけれども、最終的には石詰めかごで、委員の先生方が、それいいねということであれば、それでまとめていって、こういうのも検討しましたという、小さくして資料につけようかなというふうに考えております。

【麓委員長】 この資料の1ページ目のところに、平成21年3月に策定した案が左にあって、右側に今度、今年度策定する修正整備計画というのがあって、何が変わっているかというのが、矢印で示したさらに右側というふうに出ていて、その右側にページ8から15というふうにあるのがα整備とβ整備の幾つかの案で、8から15までが生きてきた上で、修正整備計画図というのが16になるということですよ。

【事務局（小野）・株式会社地球号（面高）】 はい。

【麓委員長】 だから、検討はしたけれども、対応しないβ案があるということにな

るわけね。

【事務局（小野）】 そのとおりです。

【麓委員長】  $\beta$ 案については、大きく分ければ、石垣の裏を低木の植栽であらわそうとするか、植生土のうを積み上げてあらわそうとするか、石詰めかごを用いてあらわそうとするか、その3つで、植生土のうは、実際、植物が生えてこない可能性がある。安土のときも、最初に生えたのがだんだん枯れてきたという話じゃなくて、場所によって全然違って、植生土のうを積んで、最初から全然生えてこない土のうが見えたままのところもあれば、うまく生えてくるところもあったということなんですけど、あのときは。でも、いずれにしても、そういう植物で石垣を見せないで、石積みじゃないけれども、もっと小さなぐり石状のものを表面に見せて石垣にしようかという話でしたよね。事務局として考えた案は、植物よりも石を使いたいということでしたよね。

【事務局（小野）】 そうです。

【麓委員長】 その石詰めかごを用いる。じゃあ、なぜここはそれを小ぶりの石にすることができないんですかね。その理由。つまり、 $\alpha$ 整備に近い形にできない理由。 $\beta$ 整備にしようという理由は何でしたかね、もともとの最初に戻って。 $\alpha$ 整備、 $\beta$ 整備、 $\alpha$ 整備というのは石を見せる、 $\beta$ 整備は石じゃないというような感覚だったんですけど。

【事務局（小野）】 8ページが $\alpha$ 整備と $\beta$ 整備の考え方のゾーニングの図だったかと思うんですけど、当初、 $\alpha$ 整備という紫で塗った部分というのは見せる整備、そして $\beta$ 整備というのは守るということに主軸を置きたいというのが、まず基本的なものとしてありました。整備の費用対効果的な意味も鑑みまして、 $\alpha$ 整備で区切ったエリアというのは主要な園路の通りに面していることもあって、かなり人の目があったり、それから小牧山城の石垣の評価の一つの大きな骨でもあります。見上げて、そしてずらっと囲まれた石垣が連なるということを観覧していただくには、この部分というのは見せる整備というのを行っていなければ史跡としての本質がない。ただ、北側の斜面で $\beta$ 整備とさせていただいたエリアというのは、あくまでも園路として搦手と言われるもう一つの登城路には当たってきて、そこを歩くことを園路として想定しているわけですが、下から見上げるということを考えた場合、その下段の次の園路、今、管理路と言っている道ですけれども、かなり下にありまして、それを見上げてどうこうとか、それからすごく山から離れて、それを見て見えるかといったら、そこまでは見えないといったようなエリアになってくることを考えると、そこまで視認性というのは、ほかのエリアに比べては少し優先度が下がるだろうと考えたというのが、当初

の $\alpha$ 整備と $\beta$ 整備の区別の仕方です。

ただ、守っていくということを主軸に置いた場合に、普通に考えれば覆って何かでということを実然考えることになるものですから、オリジナルなら覆って守っていく。その上に守った覆ったものの上の表現をどうしましょうかということを実次に考えた場合に、当然、植生土のうであるとか低木植栽、そして新たな考え方として、かご詰めものを上に置くという、次のステップでの表現の方法が3パターン想起された。その中でオリジナルを守った上で、さらに石詰めかごの場合のパターンを採択したほうが、より $\alpha$ 整備からの連続性、それから石で囲んでいるという小牧山城の史跡としての本質的価値といったものをより推進できるのではないかと考えたというものでございます。

【麓委員長】 それはそういう趣旨なんだけど、例えばページ12を見ると、石垣Ⅱの前面というのは、かなり幅の広い土系舗装になっていますよね。そこに石垣Ⅱとか石垣Ⅰが見えてくるわけですよね。だから、ここを歩いているときには十分見えるわけですよね。

【事務局（小野）】 もちろん、ここが先ほど行った園路というか搦手に通じます。

【麓委員長】 ここを歩いている見える、そして見えるのに植物よりも石のほうがいいというのはわかるんですけど、だったらページ14の石詰めかごの範囲に、ほぼ実際の石垣と同じぐらいの大きさのものを積むことができないのかなと思うんですよね。

【事務局（小野）】 想定されるのり面をということですか。

【麓委員長】 ここに描いてある石詰めかごを2段積んでいる石垣Ⅱのところ、Ⅰのところ、これは想定しているわけでしょう。

【事務局（小野）】 はい。

【麓委員長】 想定している面に合わせて、この石詰めかごの勾配を決めて積むわけですよね、2段分。

【事務局（小野）】 はい。

【麓委員長】 だったら、これと同じことを新補石で積むことができそうな気がするもんですから。だったら、こんなぐり石の石詰めかごにしなくても、石をそのまま積んだほうがもっとよくなるんじゃないかなと思ったんですけどね。

【事務局（小野）】 そうすると多分、 $\alpha$ 整備が全部になるという考え方ですね。

【麓委員長】 そういうことですよね。だから、最初のなぜ $\alpha$ 整備、 $\beta$ 整備としたんだろうと、それが趣旨が違ってきているような気がしたもんですから、石詰めかごにいった段階でね。

【事務局（小野）】 手順が、先ほど言ったような手順だったので、守るありきの頭

がずっとそのまま。

【麓委員長】 これで守れないわけじゃないんでしょう。もちろん守っているんですよ。守って、それを石詰めかごにしないで……。

【事務局（小野）】 新補石でという。

【麓委員長】 新補石を積んでという方法もあると思うんですけど。

【赤羽委員】 石詰めかごにしないといけないという、どこか無理があるとか、危ないとかという、そういうことでこれにしているわけ。それとも、じゃなければ、もともと石があるんだから、もともとの石を積んだらいいじゃないかというふうに僕は思うわけだよ。でも、それだったら危ないから、こういう、ちょっと見ばえが悪いかもしれないけど、石詰めかごにしたんですという、そういうことなんですか。特に北のほうは、結構急斜面だしね。

【株式会社地球号（面高）】 背面が急斜面、前面というか外側が急斜面で、あと石の残りが1段、根石ですね。だから、それは当然根石なので、前面を保護してあげないとこけますので、その部分をやると、ほとんど石が見えてこない状態になる。

【麓委員長】 だから、その保護はわかるんですよ。その保護をやった上で、何で石詰めかごを積まないといけないのかなと。このぐらいの2段分ぐらいを新補石で同程度の石材を積んでも、この断面だけ見ていたら何か積みそうな気もするんですけどね。

【株式会社地球号（面高）】 先生がおっしゃるとおり、この断面だけを見ると積める、大して高さもない。ただ、14ページの断面を見ていただくと2mほどある。左側のRのb-b断面という部分なんですけれども、非常に高低差があるところが結構ありまして、これで新補石を積んでも、どの高さまで積めるのか。

【麓委員長】 それは積める高さままでよくて、無理にここで考えている石詰めかご2段分の高さに積まなくていいわけで、逆に言えば、そういう高いところに石詰めかご2段、高い高さまで全部石詰めかごがだあっと見えるなんていうのも何か変な感じがするんですよ。さっきの写真にあったような低いものが石詰めかごであっても、それはしようがないような気がするんだけど、逆に高いんだったら、こういうものが。

【株式会社地球号（面高）】 目線を切るぐらいの高さぐらいではないと、こうやって見たとき、僕は土木で布団かごといいですけど、あれが見えるのはちょっと興ざめするとか不自然だと思うので、2段ぐらいだったら1mちょいなので。

【麓委員長】 だから、そのぐらいだったら石が積めるんじゃないかということですよ。石が積めないところだから、植生土のうとか、あるいは植物にしようかというのが、14ページの断面で見ると、石詰めかご、布団かごでもいいですけど、それをこ

んなふうに積みますという提案をされると、じゃあ別に、布団かごじゃなくたって、この区域がとれるんだったら、石が積みそうだなという気がしたものですからね、小ぶりの石だったら。

【事務局（小野）】 御指摘としては、あると思います。ただ、そうすると多分、 $\alpha$ 整備、 $\beta$ 整備の定義づけは一旦なくなって。

【麓委員長】 なくなってしまうですね。

【事務局（小野）】 普通に、ただ一つの方針で、普通に石を回しますというだけのことにはなってくるので、そこを今回それでいくということになるのか、また引き取ってうちのほうで話し合いをさせていただいて、また先生のほう、皆さんのほうに御相談させていただくのかということになるかと思います。

【麓委員長】 ただ石積みで整備するにしても、 $\alpha$ 整備というところはそれほど問題になくて、実際に古い石が見えている部分もあったりする。ところが、今、 $\beta$ 整備と言っているところは、実際の古い石は保護した下に隠れていて、そして今度整備した後に見えているのは、全部新しく積み直した石、雰囲気に合わせて積み直した石というだけですけどね。

【事務局（小野）】 その雰囲気を合わせるのが、もしかするとすごく作業上は難しいかもしれないなというのはあります。

【麓委員長】 でも、全く違う布団かごよりかは、私はいいと思うんですけどね。それが植物より石のほうがいいというふうにいけば、じゃあもっとこれよりは、全く昔と同じような雰囲気じゃないにしても、布団かごよりはもっとよくなるという気がするものですからね。

だから、そのまま植物でというんだったら $\beta$ 整備が生きてくると思うんですけど、ここで石を使うというふうに方向転換すれば、こんな石の使い方をしないで、石を積んだほうがいいというふうに私は思えるんですけどね。

【赤羽委員】 13ページの石詰めかごのこの写真を見れば、これでいいのかよとちょっと思うよね。ちょっとねえ。最大の目的は、やっぱり安全性の確保ということですか。遺構の保存と、例えばそこを訪れる方々の安全性の確保ということが。

【事務局（小野）】 遺構の保存に主軸を置いた場合に、こちらの法面の処理として、安全性は高いというふうに判断させていただきました。

【麓委員長】 布団かごが。

【事務局（小野）】 これのほかに、パターン1とパターン2というのが土のうなどで法面を出しているんですけども、先ほど言ったように北側だったりすると、それほど地耐力というか、それが植生というか植栽をしたことで増すとは考えにくかった

ので、その不安を払拭する案かなということで御提案させていただいたものです。

【赤羽委員】 土系舗装ね、結構幅広いんだけど、歩けるようになっていくわけですよ。

【麓委員長】 はい。

【赤羽委員】 せっかく歩いていったのに、こういうものを見せられていいのかなという。逆に歩いて行って、例えば北のほうを見るとかね。北のほうの景観というのは、犬山城のほうを見るということでは、しかも非常に急斜面の北側の斜面を見るということでは意味があるのかもしれないけど、逆にお城のほうはどうと見たら、こういう金輪みたいなのにくるまれた石垣を見るというのは、せっかく歩いて行った人はがっかりするんじゃないかなという気はするんですけど。それよりは何か植物でカバーしたほうがまだまだ、おとなしいと言ってはあれですけども、何かがっかりしないんじゃないかなという気はしますけどね。いかにもつくったという感じで見えてしまっしょうがないんですけどね。

【播磨委員】 どういうイメージを普通の方々が持たれるかなという。後ろは石垣で、その石垣があったところにこういうものが出てきたときに、これは保護のためにやっているとか、まだ土であり何なりだったら、そのかわりになっているというのがわかるけど、それがそのかわりになっているというように見るのか、なんか変な石垣ちゃうとか、たとえ説明があっても、イメージ的にどう捉えられるかなという。

【株式会社地球号（面高）】 ちょっと人工的過ぎる。

【播磨委員】 そういうことですよ。だから、まだ土だったら余り人工感がないけれども、その辺が。私はこういうかごのやつは見たことがないから、イメージが湧かないんですけどね、この写真を見て。変な石垣だなというふうに捉えるのか、ちょっとそこがわからない。

【株式会社地球号（面高）】 ちょっと今、ぼそぼそ話をしていたんですけど、どうも石詰めかごというのは人工的過ぎて興ざめみたいなことを言われていますので、実施設計のときには、植生、当然高さを見ていかないといけないこともありまして、今、対象としているエリアにつきましては、石も小ぶりなんですね、先生がおっしゃるみたいに。500ぐらいの石なので、その両方を実施設計のときに検討して周りどう合うか。当然、 $\beta$ 整備と $\alpha$ 整備と隣同士の場所がありますので、そこら辺もあって、一回それで実施設計のときに検討すると。きょう、事務局のほうとしては、石詰めかごを御推薦しましたがけれども、それはちょっと雰囲気崩すとされたら、いや絶対というのは難しいので、実施設計のときに、麓先生がおっしゃった、実際にじゃあ $\alpha$ 整備みたいに積めないのかと。積んだときに、立面ですよ、どういう雰囲気になる

のかというのを再度、実施設計で検討して委員会に諮って工事をやると。

【麓委員長】 石垣の高さを、もとの高さを想定して、そこまで全部積まないといけないという話でもないです。

【株式会社地球号（面高）】 それはなかなか今のあれでは難しいと思うんです。

【麓委員長】 だから、危険じゃない高さに石を組んで、そこから先をだらだらっとのり面にしてもいいと思うんですけどね。

【株式会社地球号（面高）】 基本的には今、全体的にそういうふうを考えていまして、上の高さ、今の現場の高さと昔の遺構面の高さというのは、結構、盛り土がされていまして、今の高さが。昔はすんなりいったのかもしれないですけど、今は高さが大分違いますので、植物が生えるのり勾配というのは決まっているので、そこに合わせて考えていくというふうに今考えていますので。

【事務局（小野）】 恐らくそれはページの8ページで、佐敷城とか河後森城の整備図絵を右側のところに上げさせていただいているかと思うんですけども、 $\alpha$ 整備のイメージとしても、天端まで石を積むということを想定しているわけではありませぬので、 $\beta$ と今言っているエリアというのは、もし仮にそういった小ぶりの石材というところをさらに消極的にした形ということの整備の手法ということのをまた史跡の中で検討させていただければ。

今回、基本計画ではございますので、もう一つ最後まで残っていた土のうと植栽で、それらを $\beta$ 設備のエリアについて検討していますパターン2というところ、②というものになるかと思うんですけども、パターン2をもって、一旦絵は、基本計画図を描かせていただいて、文章の中で実際の整備について、そういった小ぶりの石材を使った連続性を重視した整備を検討していくという、実施設計の中にそれを反映するという形で成果物とさせていただくということをお諮りさせていただいてよろしいでしょうか。

【麓委員長】 はい。それなら結構です。

ほかにはいかがでしょうか。

できたら、この16という修正計画と、一番最初に1ページの上の段の右のほうにある主郭地区整備基本計画、これがもともとの計画ですよ。これなんかうまく、もともとのやつを少し薄紙のやつにやって合わせてみるとか。

【事務局（小野）】 対比できるように。

【赤羽委員】 対比できるようにすると、同じ大きさですね。そうすると、どこが違うんだなという、どこが変わったのかなということがよくわかる。サイズも違うし、縮尺も違うんで、ぱっと見た視覚的にはイメージがなかなかつかみづらいところが。

【株式会社地球号（面高）】 今回、16ページにお見せしたものは、最終的には、今、赤羽先生がおっしゃった1ページの上の段の真ん中の計画図というのがございますけれども、この形に仕上げようと思っています。一応、主郭地区は、エリアは、この16ページのエリアだけではありませんので、最終的にはそういう形でまとめていくという形で。

【麓委員長】 あともう一つ、今のα整備、β整備とは違うことですが、大手口のところ、ページ16の。大手口の金折れに折れ曲がった先に階段がありますよね。これは活用上の階段ですよね。だから、それをわかるようにしておかないと。

【事務局（小野）】 木階段のところですね、最後に東向きに上がる。

【麓委員長】 これは木階段、この図では木階段ということがわからなかったの。

【事務局（小野）】 断面図でうたっているだけで、すみません。わかりました。そのように表現にします。

【麓委員長】 この木階段は、大分急勾配になるんですよね。11ページの木階段よりは、もっと急な勾配になるでしょう。

【株式会社地球号（面高）】 45度だったら1対1ですね。普通は1対2なので、かなり急になるかもしれないですね。ただ、前後を保護する必要上から、ある程度はやっぱり緩くしないと。

【麓委員長】 よろしいでしょうか。ほかには何かありますか。

じゃあ、今の整備基本計画の終点については、きょうの意見で少しまた修正していただくということをお願いします。

じゃあその次、小牧山城史跡情報館の展示について、説明をお願いいたします。

【事務局（小野）】 それでは、座ったままで説明させていただきます。

前回、年末に、それから年明け、各先生方のところに伺わせていただきまして、もろもろ展示等に関する御相談をさせていただいているところでございます。お手元には、縦長A3版のホッチキスとじのものが2部、そして、1枚のものが1部つけさせていただいているものが、今回の小牧山城史跡情報館「れきしるこまき」の展示に関する資料でございます。ただ今回、この会議上で全てのペーパーの一言一句について逐次ということではなく、こういうところで今、パネル関係、それからグラフィック、展示の文字資料的なものにつきましては、このような形で作業を進めさせていただいておりますという、御確認のために御提示をさせていただいている資料でございます。

なお、この内容につきましては、前回の会議でも播磨先生のほうから御指摘をいろいろいただきました上で、その後、また播磨先生のほうから御紹介をいただきました

監修者の方と、現在、内容の監修を詰めている上で進めている途中経過ということになりますので、こちらが決定稿ということではございません。まだまだ直しを入れた上で、成果物というふうに仕上げたいと考えているものでございます。

年明け来、先生方のほうにもお会いして見ていただきました映像につきましては、いよいよ、建物自体も立ち上がってまいりまして、展示の作業に乗り込んできております。本来でしたら、中に入って進捗を御確認いただくところではございますが、まだ若干調整中を見ていただく状況ではございませんでしたが、そのあらましかでもということで、受託者の株式会社トータルメディアさんが、きょう、中の様子を撮ってきた資料の映像をお持ちしております。そちらを御確認いただいた上で、何かコメントがあれば、御指摘をいただければと思います。こちらの資料につきましては、今、何かお諮りするということではありませんが、お気づきになった点があれば、また後ほどお知らせをいただければ、それを展示のほうに反映したいと思っておりますので、よろしく願いいたします。今後も引き続き御指導をお願いしたいと思っております。

なお、展示の映像関係について、本来は中で見ていただくものですが、ダイジェストのものをきょう御用意しておりますので、こちらで御説明をさせていただきたいと思っております。

【株式会社トータルメディア開発研究所（吉原）】 おかげさまで、大分現場のほうで石垣の模型とかも入りまして、今、映像のほうも仮映像なんですけれども、投影のほうの細かい調整を、この一、二週間ずっと続けておりまして、また3月末ぐらいまで調整を続けている状況なんですけれども、きのう、それでもまだ調整中なんですけど、最新バージョンとして、全部ですとなかなか長いので、ちょっとずつなんですけれども、撮影をしてきましたので、ダイジェストとして見ていただければと思います。

（映像上映）

【株式会社トータルメディア開発研究所（吉原）】 まずは、城郭シアター、エントランスのところの丸いところになります。

これがもう一本用意してあります学習用の映像になります。これは団体の方とかが来たときに、見ていただくような映像になります。

【事務局（小野）】 レクチャールームでも上映できるようにしてあります。

【赤羽委員】 丸い部屋でも。

【事務局（小野）】 丸い部屋でも、講義室でも流せるようにしてあります。

【株式会社トータルメディア開発研究所（吉原）】 最後の石垣のところですよ。今操作しているのは、お伺いしているときに余りお見せできていなかった操作卓です。転落石をかたどらせていただいて、これが操作卓になって、コケを払うとタイトルが出

てきてどれかを選んでいくというのが選択肢になります。子供が結構遊びながら、石に親しんでもらうというようなことです。

今、暗い感じにできているんですけども、スタートするまでは明るくて、スタートすると暗くなっていった映像が見やすくなるみたいな、照明での演出もさせていただいています。まだ途中段階なんですけど、済みません、御報告ということで。

【事務局（小野）】 議題の2、(2)の小牧山城史跡情報館の展示、今、御確認いただきましたような状況で現在進めております。ここで何かお諮りするということではありませんけれども、御指摘事項等ございましたら御指導いただいて、進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

何かございましたら、お願いいたします。

【麓委員長】 今のナレーションで、小牧山城と言っていましたよね。小牧山城は何も問題ない。

【播磨委員】 でしょうね。

【事務局（小野）】 音としてということ。

【麓委員長】 というより、小牧山城と言っているかどうか。

【事務局（小野）】 情報館の名前も小牧山城になっていまして。

【麓委員長】 史料的に小牧山城と呼ばれているものは何かありましたっけ。

【播磨委員】 小牧山城というような書かれているものは余りないと思います。でも小牧城と言っているのも、だから小牧山の城とか、小牧がとか、そんなのが多いですね。

【麓委員長】 それで、史跡名称も史跡小牧山と言っていると思うんですよ。今、あたかも小牧山城という名称があるかのようなナレーションだったので、ちょっといいのかなという気がしたんですけどね。

【事務局（小野）】 これまで市としても、発掘調査とか、それから公的な印刷物等で配布しているものについては、「小牧山城（史跡小牧山）」と表現をさせていただいている場合が多くて、小牧城というのが、昭和の後半ころには山頂の資料館をニックネーム的に呼んでいたときに使っていた名称でもございまして、市としての、史跡名称等と丸々一致するものではないんですが、戦国付近の小牧山に築かれた城郭というのを指す場合は、山全体をお城としてみなすよということで、市の統一方針として小牧山城という名称で表現させていただくというのも、今回で決まったということではなく、かねてより一つのテンプレとしてオーソライズされているものと理解しておりますので、このまま進めさせていただければと思います。

【麓委員長】 わかりました。

【播磨委員】 それと、午前中にも言ったんですが、小牧・長久手の戦いというのが歴史用語として使われているので、小牧・長久手の合戦と通俗的には言われているので、ちょっとそれはどうかなというのは思います。ただ、小牧市の、先ほどから見ていたら、割といろんなパンフとか、みんな小牧・長久手の合戦となっているんですよ。私ももう一度ちゃんときっちり調べて、たしか歴史用語としては戦いという、教科書もそうになっていたような気がするんで、再度確認はしておきますけど。

もちろん、当然、当時はここの小牧だから、合戦をやったとかはともかく、あくまでも歴史用語ということで。

【麓委員長】 赤羽先生、何かありましたら。

じゃあ、次の報告事項に行きたいと思います。

史跡小牧山主郭地区第11次発掘調査について、説明をお願いいたします。

【事務局（小野）】 御報告させていただきます。

こちら、本来でしたら現場のほうで御説明するべきところ、今回、映像で持っただけだったので、済みませんが、そちらで御確認をお願いいたします。

10分ほどの映像でまとめてまいりましたので、そちらで御確認のほうをお願いいたします。

まだ音声が入っているものではないので、無音で参りますが、全部テロップでは補足しております。毎年、ユーチューブ、それからさまざまな機会を通して市民の皆さんにも見ていただけるように、その年の発掘調査をダイジェストでまとめているものになるので、今までのものだったりとか、それからそもそも小牧山というのはねというくんだりから毎回始めております。

今年度は、11次の発掘調査ということで、お手元の資料には現地説明会の資料をお持ちいたしました。南東の斜面、1段下と2段下の曲輪をつなぐ切り石面を中心に調査に入った状況が、こちらの映像の状況でございます。見てのとおり、結構厚く堆積土がありまして、遺構面に至るまで、それなりの土量と転落した石などがあったということでございます。

真正面に見えるのが曲輪と曲輪をつなぐ切り石面、下段に立っていますので、今この場所が曲輪023と言っているものですが、調査前の状況としては、こんな急な斜面が出ているような状態です。段違いで曲輪022と023があります。それをつなぐように、今、車両が通行できる管理道が通っています。定点観測をしていますので、現状は調査前からどう変化していくかがわかるかと思うんですが、これもまた場所を変えて表土を取り除いていきまして、徐々に岩盤と石垣が見えてくる、下には大量の堆積の石がありまして、その礫を外すと、曲輪023の本来の遺構面というのがのこされてい

ました。およその高低差は5.8m、その5.8mのうち下3分の2は岩盤を切り取ったもの、3分の1が石垣という状況でした。石垣に寄ってみますと、こういう状態で、大体30cmから50cm角のチャートを中心とする小牧山の石材、プラス河原石、花崗岩も一部には確認されております。石垣の下3分の2の岩盤は、加工されて少し平滑になっている部分も認められておりますので、本来の山の斜面の傾斜を削り込んで垂直に近い形、実際にはかると70度程度なんですけど、切り立てて加工して岩盤壁面をつくっている。これがちょうど023と022の曲輪の段違い部分を吸収している映像になります。

小牧山のこれまでの調査としては珍しく、方形の土坑が2基出てまいりました。かなり、礫が充填されておりましたが、特に土坑SK01については、戦国期のかわけを中心とする遺物がかなり大量に入っておりますので、良好な資料となりそうです。

加えて、この023面では大きな発見があったところがございます。丸い玉石が敷き詰められている状況が確認されておまして、このような状況で礎石が点々ときれいに並んでいる。およそ9個の礎石を確認しておまして、こっちも続きがあるかなというところで追いかけたところ、こちらにはなかったもので、ここで終わりということは確認済みです。なので、こちら側に向かって奥行きというかあるわけですが、幅はおよそこれで確認できたと思っております。その礎石沿いの一部には、なぜか玉石敷きと、それに伴う玉石をきれいに壁面に並べたような側溝があって、この上は岩盤の壁面になりますので、ほぼ岩盤に沿うように建物がかなり近接して建てられている状況。理解度を優先してこのような絵を描かせていただいておりますが、壁面の上はどうなっていたのか、こういうふうに関口していたのか、壁面が閉じていたのか、それもわかりませんので、どちらの絵も今上げている状態です。

加えて遺構面、それから023面、建物の付近からは今まで小牧山城では遺物がほとんど出なかったんですけども、このように形がとれるほぼ完形に近いような遺物がある程度まとまって出てきているということも、今回の大きな成果だと思っております。これはすごく使用痕が顕著で、ものすごい使った跡がある天目茶わんです。これ青磁小杯と言われるものですね。これ内面が被熱により変質しておりました。ということで、香炉として使っていたのではないかという推定をしております。あと豆皿、かわらけも出てまいりました。その建物より1段高い曲輪022も調査を行ったんですけども、1段高い列で、同じく石垣列が部分的に確認されております。

花崗岩を使っていたりとか、相当大きめの石をそのまま使っていたりとかいうこともしているようです。樹木等に影響されまして、部分的にしか掘れていないんですけども、石垣の続きが部分的には見えていました。それらの成果をもって、昨年11月18日に発掘調査の現地説明会を行いまして、約600名ほどのお客様がお越しになり

ました。

市の発掘調査としては、8次調査で、搦手口の部分で礎石と思われる石を1基確認しておりました。搦手門などに伴う施設のものかなと想定していたんですけど、これほどきちんと建物の1棟分が確認できたというのも初めての事例ですし、それに対して玉石が伴った、それから高級茶器が伴うといったことも加えて成果としてありますと、小牧山の山頂部のありよう、当時の利用方法とか機能というものを知る上で重要な手がかりになってくると思います。これらの成果をもって、先ほど御審議もいただきました主郭地区の整備に反映させていきたいと思っております。

以上が、今年度の11次調査の発掘調査成果の概要となります。ありがとうございました。

【麓委員長】 報告でしたけど、何か御質問はありますか。

【赤羽委員】 すごい、かわらけとおっしゃっていたけど、煮沸、土師器。

【事務局（小野）】 ロクロ成形皿と言っている浅いお皿のもので、こちらだと時々転用で灯明皿になっているものもほかのところではあるんですが、今回見つかったものは灯明皿に転用されているものは一点も今のところ見ていないです。ほぼ同じ規格のロクロ成形皿が、十何枚とかいう枚数になると思うんですけども、今回の調査で見つかっています。煮沸のものはないです。煮沸の鍋窯類は今のところ……。

【赤羽委員】 出ていない。

【事務局（小野）】 あれです。武家儀礼のやつ。

【仲委員】 茶室っぽい可能性はないですね。

【事務局（小野）】 たくさん指摘もいただいていて、あると思っはいます。それは、やっぱりもう少しこっち側を広げたい。ただ、あれで1棟で全部茶室というよりは、玉石が伴うところからだけをそういう空間に棟の中で切り分けて使っているのかな、もし茶室だとすればですが、とも考えています。

【麓委員長】 礎石の大きさはどのぐらいですか。

【事務局（小野）】 大体30センチ角ぐらいの。

【麓委員長】 だったら茶室じゃないですよ。茶室にそんな大きな礎石を使わないですから。

【事務局（小野）】 あと、柱の間隔が1.5なんですね、メートルでいくと。5尺で多分先生、いいと思うんですけど、5尺のあれでした、間というか。

【麓委員長】 よろしいでしょうか。

それでは、その他何かありますか。

どうぞ。

【事務局（岩本）】　こちら、主郭地区の修正につきましても、本日御指摘いただいたことをもとに修正させていただきまして、また委員の皆様方にお知らせさせていただきたいと思っております。また、史跡情報館の展示につきましても、今後も進めていきますので、また御指摘等ありましたら、御連絡をいただければ幸いです。以上になります。

【麓委員長】　じゃあ、よろしいでしょうか。

それでは、一通り終わらせましたので、進行を事務局のほうにお返しいたします。

【事務局（岩本）】　どうもありがとうございました。以上をもちまして、本日の議事日程は全て終了いたしました。慎重な審議をいただきまして、どうもありがとうございます。

これをもちまして第4回の小牧山整備計画専門委員会を閉会いたします。ありがとうございました。